

令和7年度 第1回社会教育委員会会議 会議録

開催日時	令和7年5月15日 木曜日 13時30分から15時20分まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	和田智司教育長、久保田秀実委員長、橋本由恵副委員長、石黒賢路委員、伊庭しげみ委員、関口金由紀委員、三宅栄子委員
欠席者	市川葉子委員、稲葉通隆委員
事務局	松本教育部長、山下生涯学習課長、二見生涯学習班長、北川スポーツ推進班長、込山図書館班長
その他	傍聴者0名

1. 開会

2. 委嘱状の交付

3. あいさつ

4. 議 題

(1) 生涯学習課事業について

(副委員長)

町民大学講座で、サークル化につながった講座はあるのか？

(事務局)

サークル化につながったものは、最近はない。令和5年度に行った古文書の講座は、継続学習を続けていると聞いている。

(委員)

新しいサークルは、なかなかできない。今あるサークルを紹介して、入ってもらうということはある。

(副委員長)

町民大学で、アンケートをとられているなら、結果を教えていただけると、どんなものに興味があるのか等参考になる。

(副委員長)

幼児スポーツチャレンジは良い試みだと思うが、子育て・健康課との情報共有や協働はされているのか。

(事務局)

子育て・健康課に昨年度スポーツ推進班長を務めた職員が課長として異動しており、今後はより確実な連携が図れると考えている。

生涯学習課では、神奈川県が進めている「カナッキー」幼児スポーツチャレンジのメニューを導入している。年齢に応じたメニューがあり、半年後にまたチャレンジでき継続的に取り組める仕組みとなっている。

子育て・健康課主催の未就学児対象の事業の場でも周知を図りたい。また、人と人とのつながりを生む取り組みも継続して実施していく予定である。

(委員)

半年に一回行うとのことだが、スポーツフェスティバルの中でも継続して行うという理解でよいのか。

(事務局)

昨年度は、スポーツ推進委員主催で1回、スポーツフェスティバルで1回行っていた。今年度は、スポーツ推進委員主催で2回行い、スポーツフェスティバルでは、未就学児よりも学齢が上の子どもを対象に行っていく。

また、幼児スポーツチャレンジのアンケートから、「ぜひまた参加したい」との声が多く寄せられた。このような意見を参考にし、今後の事業運営について考えていきたい。

(委員)

学習支援の講師、協力いただける方を集めるのに苦労していると山西小学校の学校運営協議会で課題があがるが、町民大学講座をされている方で、地域学校協働活動推進員と連携している方はいるのか。

(委員)

講座運営に注力しており、連携までは手が回っていない。

(副委員長)

「身近な余暇ガイド」に講師登録のようなことは行っているが、将来的に「学校でも教えることができる」といった項目が設けられ、適切な人材とし

て学校へ紹介できる仕組みが整えられると良い。

(委員)

小中学生に対しての講座がなかなかできていない。講座の候補日が土日のみであり、子ども達も忙しく、参加者も集まりにくいとため、企画の実施に苦慮している。

(副委員長)

学校のニーズもあるので、平日子どもがいるところで学習支援として活かしていただけたら良い。

(委員)

水の流れやレモン電池の実験等、4, 5 年前までは小学校へ行っての講座を行っていた。

(副委員長)

学校に色々な団体から活動のアイデアが来るので、そこから講師の方を選ぶという選択肢もある。

(委員長)

議論の趣旨は、放課後子ども教室に限定されるものではないのか。

(副委員長)

放課後子ども教室だけではない。学校からニーズがあった時に、学区に限られると母数が少なくなってしまう。地域学校協働活動推進本部があると、まとめた情報をどの学校でも同じ情報が得られるので良い。

(委員)

科学技術関係の講師養成施設があり、以前はそこに行って資格を取得し講座を行うという形だったが、最近は高齢化もあり、行くことができていない。小中学校の定年を迎えた先生は知識を持っているので、定年後に何かやってくれるシステムがあると良い。

(2) 令和7年度 二宮町社会教育事業計画について

(委員長)

資料4の各指標について、実際の手ごたえとしてはどうか。

(事務局)

情報発信については、課題が残ると感じている。例えば、ラディアンホールでイベントを行っている、図書館の来館者がイベントに参加いただくこともある。そういった方からは、イベントを知らなかったという声も聞くので、そういった方にも届く工夫を考えている。

コロナ禍で様々な事業が中止となり、まだコロナ禍前に戻っていない事業も多いが、放課後子ども教室を休日に開催し、保護者の関心を引く等チャレンジしながら、改善を重ね実施していきたい。

(委員)

子ども会育成会連絡協議会（以下、子育連）が今年度一杯で解散になり、子ども会が残る地区もあるが、今後どのように支援していくのか。

(事務局)

今までのノウハウ、青少年指導員の横の繋がりがあるので、活動のご相談に応じる等人的な面で支援していきたい。

(委員)

そもそも子ども会が無くなる原因は何なのか。

(事務局)

役員の負担が大きいと聞いている。今後は、放課後子ども教室の拡充や土日開催等で、地域、異年齢の交流をお手伝いできれば良いと考えている。

(委員)

一色地区では、百合が丘地区と合同でやっているが、同じような仕組みを作っていかなければいけないと思う。

(事務局)

松根地区と富士見が丘三丁目地区を除いて、地区同士で子ども会のようなものを作るという情報は入ってきていない。子ども会を残す地域、形を変えてサークルのような活動をする地域等があるということは聞いている。

(委員)

どこの地区が存続し、どの地区が活動を終了する予定なのか。

(事務局)

現在、子育連に加盟している地区の子ども会は、上町、中町、下町、梅沢、元町北、元町南、富士見が丘二丁目の7地区。他の地区は、子育連から脱退している。脱退した後、子ども会を解散する地区もあれば、違う形でやっていくという地区もある。

(委員長)

平塚でも結びつきが強い地区があったが、新しいマンションができ、新しい人たちが入ってくると異議を唱える人も出てきた。同じようなことが、二宮でも起こっていると想像できる。

二宮でもこれから解散されるという流れかと思う。今後、状況が変わる可能性はあるのか。

(事務局)

ないと思う。

(委員)

解散するのは良いが、解散した後どうするのかという話が出ないと、課題が残ると考えられる。

(事務局)

子育連がこれまでやっていた事業は、役員を集めて、町全体で野外研修等のイベントを実施することだったが、それが保護者の負担になっている。

これが無くなるが、町としては、今後、放課後子ども教室に重点を置き、子どもが自主的に選び、学校帰りに地域の方と交流しながら社会体験できるよう充実させていくことを考えている。

(委員)

町や都会で自治会が減少している状況と子育連の解散の件には類似した側面がある。

(副委員長)

今までのやり方では、今の方々にとって魅力を感じなくなり縮小してしまうのは、必然かと思う。一方で、各地区で保護者と話をすると、この部分は残したいという意見が出る。生み出していく部分も起こっているようなので、それを見守っていく。

(委員)

そこを後押ししていかなければいけない。

(副委員長)

最近、お祭りが復活してきていて、地域でつながりを求める保護者の声も聞かれる。

(委員)

子育連の大きい事業はキャンプだが、昨年度は東京大学果樹園跡地で行い、あそびの庭や自然塾も協力した。今年度は、子育連の予算が残っているから何かやられると思う。ただ、すべてボランティアではできないので、予算があれば私もそのような事業を町民の団体として請け負う事ができると思う。

(委員長)

子育連の予算が今後無くなるということは、人的な支援はするけど、金銭的な支援は行わない方針なのか。

(事務局)

子育連の繰越金や何周年記念事業用に積み立ててきた予算があるので、今年度のイベントは、その資金を使い行くと聞いている。子育連へお渡ししている運営費は、ほとんど保険代となっていて運営経費になるような金額ではない。

前回も野外研修を行ったときに、子育連の団体に加盟していない方は保険代を実費負担していただいている。今後どうしていくか子育連に確認したところ、繰越金等があるので、町からの補助金がなくても実施したいという話であった。

(3) 令和7年度 二宮町社会教育委員関係事業予定について

－質疑等なし－

(4) 青少年指導員及びスポーツ推進委員の選出方法について

(副委員長)

青少年指導員という名称は全国区なので仕方ないかもしれないが、内容が指導から支援に変わってきている。二宮らしい名称があると応募者の増加につながる可能性がある。

(事務局)

青少年指導員という名称は時代に合っていないので、子ども応援隊等ネーミングを変えて、青少年指導員を兼務しますという形にした方が適切であると考えている。

(委員長)

ここで決めないといけないのか。

(事務局)

時間的な余裕はあるので、事務局でも検討し、6月の社会教育委員会議で進展した話ができれば良いと思う。

(5) その他

5. 閉 会